



① 5軸加工機とマシニングルーム
② 製品の最終仕上げ
③ 本社2階エントランス
④ メスでシリコン型を切開
⑤ 画像測定器で検査中
⑥ クリスマスイルミネーション

金属加工

プラスチック加工

機械

部品部材

生活・環境

株式会社 プロトワーク



代表取締役社長
たむら つねのしん
田村 常之進さん

時代のニーズに応じた
ベストな対応を

「プロトワーク」は試作品製作をはじめ、20年が経ちました。世界中のお客様から指名され、そして必要とされる企業を目指して顧客のニーズをいち早く捕らえ、全社員とともに時代に合った技術やサービスを見だし、常にベストなやり方を進化させてきました。また、品質・精度を向上させるため技術力を高めてきましたが、現在ではさらにスピードも求められています。そこで年中無休24時間受注の生産体制で短納期を強みにした。どこよりも早く対応できる樹脂・金属切削専門の試作屋です。

■主な事業内容
樹脂切削加工、金属加工、小ロット量産加工
■主な取引先(納入先)
自動車メーカー、半導体設備メーカー

住 所 / 〒570-0044
大阪府守口市南寺方南通1-5-26
TEL / 06-6993-6361
FAX / 06-6993-6362
創 業 / 平成8年 8月
設 立 / 平成8年11月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 33名

<http://www.plot.jp/>

若手の推進力でスピード試作、不良品率ゼロを目指す

事業内容と沿革

樹脂から金属へ生産体制を強化

平成8年、ブローカーとして事業を開始した。「ものづくりをしたい、もともとはマンションの一室での営業で始まり、工場を借りてスタートした」と田村常之進社長は話す。リーマンショックを受け、樹脂の受注が減少。リスク分配の必要性に気づき、「今ある設備でできるものを作ろう」と、樹脂中心からアルミなど軽金属の切削を始めた。難加工を要する自動車部品の需要が増加、平成21年に5軸加工機を導入して以来金属切削加工を本格的に開始し、引き合いが増えた。

現在は、樹脂や自動車のエンジン部品に使用されるアルミなどの軽金属の試作から、半導体洗浄設備の部品の量産加工までを手がける。試作品は年間約3,000種類、小ロットでの量産品は年間約50種類を製作し、短納期での対応力の強化に努める。東京オリンピック後の平成32年(2020年)以降を見据え、今後は金属加工の分野を医療や航空機分野へ広げるために、ステンレス、チタン、インコネルなどの軽金属のテストを行い加工体制を整備している。

強み

若手を育成、ウェブシステム導入で残業軽減

平均年齢が30歳で、女性社員の割合が全体の約30%という、若手と女性の働きやすい職場が同社の強みだ。平成28年度入社は3名全員が女性の新卒社員。社風は「大学のサークルのよう」という。難加工機のプログラムもゲーム感覚で生き生きと楽しみながら学ぶ社員が目立つ。若い社員を中心とした新鮮な視点からの有給休暇や育児休暇などの提案を採用し、社内体制を整備してきた。同社は委員会制度を設け、安全管理委員会、レクリエーション委員会、空調委員会など全9つの委員会を導入し、安全帽や作業靴の着用ルールから社内電気全てのLED化などまで、委員会での提案を実践した。

平成27年にはウェブシステムを開発し、社内の労務管理に役立てている。出退社時間や勤務場所などの情報を社員全員がクラウド上でオンライン共有。導入前は月あたりの平均残業時間は60時間だったが、現在は30時間ほど。「誰が何時に退社するかを全員が把握するので時間の意識が高まり、劇的に残業が減った」と田村社長は話す。

取り組み

若手採用に企画提案

新しい視点で製品販売の戦略を練ろうと、平成21年から22年にインターンシップ生を1名から2名ずつ半年間受け入れ、自社製品の販売・営業戦略を担当させた。大学との関係を築くとともに若者の新鮮なアイデアを取り入れるメリットを得られた。一方で、近年の採用難を受け、平成29年はインターンシップを再開し3月下旬から人事として採用活動戦略を練る。田村社長は「インターンシップ生が学生を採用する過程で、学生の視点から、大手企業の製品技術を支える中小企業のものづくりの魅力をPRしてほしい」と話す。

スピードアップで生産力強化

新規顧客の獲得へ平成28年から展示会への出展も始めた。自社ウェブサイト「スピード試作.com」を作成し、顧客のニーズに素早くタイムリーに対応して納品する。年中無休で24時間対応、納品のスピードを上げることも1つの技術。平成28年8月に商標を取得し、サービスを開始した。以来、従来の月当たり約10件から約30件へ受注が伸びた。

今後の展開

若手の獲得に若手の視点を取り入れる

新規顧客獲得へ、短納期に重点を置く。時代のニーズに応じ「スピード試作.com」を通じたネットによる簡易注文から、いち早く高品質な製品を納品する体制を強化する。同時に、新たな視点からの社内体制の整備、製品開発は今後も重要視する。従来の就活サイトでの採用活動に依存し、合同企業説明会から面接試験へ持って行く方法には限界がある。若者の視点から学生へアプローチするためにインターンシップ生を人事に活用し、若者がものづくりの魅力に直に触れて興味を持ち、同世代の若者に伝える経験を増やしていく考えだ。

平成37年を目途に金属加工を現在の30%から70%までに増やし、軽金属を活用した自動車部品を現在の10%弱から30%、医療機器や航空機部品の製作も始め、各20%ずつまで伸ばす。田村社長は「国内事業で着実に裾野を広げて海外展開を再開させ、平成30年3月期の売り上げは前年より5,000万円増加して5億円を達成し、平成37年へ向けて弾みをつけたい」と意気込む。